

視察研修等報告書

坂井市議会

議長 戸板 進 殿



令和6年5月22日

会 派 名 政友会
報 告 者 辻人志

1. 日 時 令和6年5月7日（火）～令和6年5月8日（水）
2. 視察研修先 (1) 一般社団法人日本ランニング協会（東京都港区）
(2) 東京ビッグサイト（千葉県千葉市）
3. 視察研修内容 (1) マラソン大会運営に関するレクチャー
(2) 国際ウェルネスツーリズムEXPOの視察
4. 参加者 川畑孝治、辻人志、伊藤宏実

5. 内容詳細

(1) マラソン大会運営に関するレクチャー

日本ランニング協会は、「“安全に楽しく継続して走る”ことを普及する人材」の育成を目的に2013年に設立された一般社団法人で、“いつでも、どこでも、だれにでも”できるランニングを、ライフスタイルの一部として定着させ、全ての人が健康となることなどを目的にしている。

そのため、ランニングを安全に実施するための必要で正しい知識の普及とその資格認定を行うことで、安全に楽しく継続して走ることができる環境づくりを推進している。

具体的には豊富な知識を持った講師陣による“安全に楽しく継続して走る”ことを普及する人材への資格認定講座、地域のスポーツ教室から数千人規模のランニングイベントまで様々な種別のイベント企画・運営を行っている。

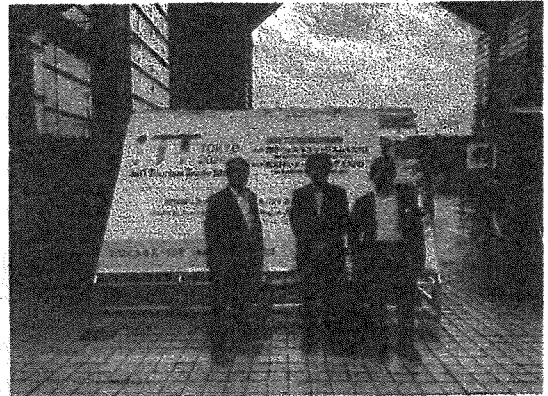


大規模な都市型マラソンに人気が集まる一方、地方のマラソン大会の参加人数が減少し継続困難に陥っている大会もある中で、今年17回目を迎える坂井古城マラソンの今後の運営などについて多方面からアドバイスをいただいた。

(2) 国際ウェルネスツーリズムEXPOの視察

ウェルネスツーリズムは「健康の維持・増進」を主な目的にした旅の形態をいい、旅先でのスパ、ヨガ、瞑想、フィットネス、ヘルシー食、レクリエーションなどの交流を通して心と体の健康に気づく、また地域の資源に触れ新しい発見と自己開発ができ、原点回帰してリフレッシュし明日への活力を得ることができると言われている。

国際ウェルネスツーリズムEXPOは、ウェルネスツーリズムに関わる施設・アクティビティ・ヘルシー食・地域が一堂に出展する展示会で、ウェルネス施設やウェルネスアクティビティ、ウェルネスプログラムを提供する旅行会社、自治体、観光協会、DMO、ワーケーション施設、医療施設・クリニックなどが出展している。



6. 所見・感想等

●川畑孝治議員

(1) マラソン大会運営に関するレクチャー

今年3月31日に初めて行われた、ふくい桜マラソンは多くのランナーが集まり大盛況であった。しかし、坂井市古城マラソンは近年参加ランナーが減少しており他のマラソン大会の事例などにより、参加ランナーの増加や盛り上がりなどをお聞きした。

毎回の古城マラソンにおいて、ゲストランナーを招待しているが、協会理事の方の話では、今日ゲストランナーでは参加ランナーを増やすことはできないとの話に納得をした。

市の合併により、旧町ごとのマラソン大会を古城マラソンに集約したが、現在小中学生の参加割合が少なく感じ、各学校への呼びかけの必要性を感じた。

また、走るだけではなくウオーキングを取り入れた大会もあるとの事で、市の歩こっさアプリに関連させて、マラソン大会にウオーキングの部も設けるのも良い事と感じた。

日本ランニング協会では、ランニングやウオーキングの指導者派遣や育成もしているとの事で坂井市でも活用すべきと感じた。

(2) 国際ウェルネスツーリズムEXPOの視察

昨年に続き本年もウェルネス展の視察を行った。

昨年は初回ということもあり、いろいろなブースが出ていたが、今回は医療部門メディカルツーリズムが多く感じた。また、昨年はサウナ関係が多く有ったが今回は少なく感じたが、テクノポートに工場のあるファーストウッドが移動式のサウナ車を出展していた。

昨年は小松市など市単位でのブースも見られたが、今回は沖縄など県単位でのブー

スが多かった、温泉を核として他の観光地などを紹介していた。

3月16日に北陸新幹線が敦賀まで延伸開業した今日、坂井市においては市単独ではなく、嶺北一帯を見据えてスキー場・恐竜・大仏・一乗谷朝倉遺跡・芦原温泉などと、現存12天守の丸岡城や東尋坊・海浜公園・水族館などを観光・ウェルネスの一環として提案、情報発信が必要と改めて感じた。

●辻人志議員

(1) マラソン大会運営に関するレクチャー

まずアドバイスをいただいたのが、ゲストランナーでは人が集まらないということである。ほとんどのマラソン大会が誰をゲストランナーとして呼ぶかで試行錯誤しているようだが、それよりも古城マラソンをどうブランディングするかに主点をおいて大会運営を考えるべきとのことだった。ゲストランナーに予算を費やすよりもマラソンコースやノベルティに工夫を凝らして他のマラソン大会と差別化を図り、古城マラソンを魅力的に感じてもらうことが大事であるとのことで、タオルやリュック、シューズケースなどを参加賞として出している古城マラソンは再考の余地があると言える。

他にも、安全安心な大会であるというイメージを前面に出すことや、地元の人に多く参加してもらうために参加賞に地元でしか使えない振興券を出す、県内のスポーツ選手と一緒に走ってもらう、温泉施設とコラボすることや、健康ウォーク部門を設けて一般参加者を募るなどのアドバイスをいただいた。

日本ランニング協会は東京都品川区において2025年に開催される品川シティランの大会運営に携わっているとのことだったが、この大会は従来の記録を狙うマラソンから、観光やシティプロモーションを主眼に置いた大会に移行するとのことで品川区と連携協定を締結している本市にとっては注目したい大会だと思う。

(2) 国際ウェルネスツーリズムEXPOの視察

テレワークからオフィス通勤への回帰が増えていると言われている中で、沖縄県と千葉県がワーケーションを進めるブースを出していた。沖縄はリゾート感を、千葉は首都圏からの好アクセスをPRしており、今後は地域の特性を生かした質の高いワーケーション事業が問われそうだ。

県単位で広いブースを出している県もあったが、市町村単位の自治体や観光協会が出店しているところも見られた。どの出展者も単に観光地を売り込むのではなく、健康ウォーキングや美食を絡めたモデルコースをアピールしており、様々なパターンによる売り込みの必要性を感じた。

医療ツーリズムに関しては、昨年比べて比較的規模が中小の民間医療機関の出展が見られた。これらの医療機関は中小規模ながら医療設備は充実しているようで、検査項目や検査機器において他の医療機関と差別化を図っていた。

医療ツーリズムは患者さん本人だけではなく、同伴者も長期滞在するケースが多く、しかも富裕層が多いため、ホテルやショッピング・飲食など、観光関連の消費額も通常の訪日外国人よりも高額になることが予想され、今後において導入を検討する事業者が増えると予測するが、本市だけで事業を行うのはまだまだ厳しい状況で、広域連携を視野に入れた取り組みが必要だと思う。

●伊藤宏実議員

(1) マラソン大会運営に関するレクチャー

ランニング協会では、全国で実施されているマラソン大会の実情や問題点をお聞きし、同時に「坂井市古城マラソン」の運営などについてアドバイスを受けました。

全国で実施されているマラソン大会は運営に苦慮しているようで、坂井市古城マラソンについても、当初の位置づけを再度思い起こし、例えば、『市民中心の健康・福祉マラソン』と言った形で再構築することが良いのでは、と大変参考になるアドバイスをいただきました。

(2) 国際ウェルネスツーリズムEXPOの視察

ウェルネス展では、ドローンによるショーや新しい健康グッズ、観光客のおもてなしグッズ等々、興味深い商品や企画が大変参考になりました。